

地域総合空間創造のための見守りコンシェルジュサービス
に関する戦略策定（平成29年度事業）

実施協力団体：（一社）研究産業・産業技術振興協会

【事業の目的】

中部国際空港は、知多半島の常滑市から橋で連絡されている空港島に立地していますが、空港島では、2019年秋の国際展示場開設などの影響で駐車場の容量がタイトになることが予想されており、常滑市内の大型商業施設の駐車場と統合運用すること及びこれを地域の総合的な経済発展に結びつけることが重要になっております。

一方、26・27年度にイノベーション戦略策定事業で実施した「高齢化社会における安全、安心、便利な駐車場システムに関する戦略策定」事業では、将来の駐車場の姿として、最先端のセンシング・知的情報処理による駐車場機能の高度化、高齢者等への配慮、車の誘導・衝突回避、販売促進等からなる統合型駐車場システムを示しました。この成果を、中部国際空港及びその周辺地域に応用することも大切です。

これらを踏まえ、本事業では、中部国際空港及びその周辺地域（常滑市など）を対象にして、知的情報処理技術を活用し、個々の施設や企業が有機的に連携することで、駐車場を核とする地域の情報システムを高度化する戦略を検討し、地域産業・社会の活性化を図ることを目指します。



【29年度事業の概要と成果】

地域情報システムに関する学識経験者、中部国際空港と常滑市の企業や経済団体などが参加する

検討委員会を研究産業・産業技術振興協会に設置して、(1)第一段階として、2019年稼働の国際展示場新設等に伴う駐車場需要増への対応策、(2)第二段階として、2030年までの地域総合空間創造の提案を検討しました。検討に際しては、ITや都市知能に関する学術・技術動向を調査するとともに、現地調査や2つの作業部会による検討も行い、空港管理会社と周辺の大型商業施設のニーズなどを踏まえ、次の案が提案されました。

①近隣駐車場の統合運用システムの提案

予想される駐車場の逼迫を回避するために、駐車場に共通IDを用いた駐車場の統合運用を中部国際空港、周辺地域の大型商業施設などに導入することが有効と提案され、共通IDとして6種類の方式についての得失が検討され、現地事業者のための基礎情報が得られました。

②上記システムを拡張・活用するIoT型商業活性化の提案

駐車場を利用する顧客の人流、消費動向、嗜好などをビッグデータとして把握すれば、商業活動の活性化にも役立ちます。このため、中長期的に、このように、上記の共通IDを用いた近隣駐車場の統合運用システムを拡張・活用すべきとの提案が得られました。

③DMOによる観光振興

中部国際空港のインバウンド客を念頭に置いて、DMO型事業体（Destination Management Organization：観光情報集約型事業体）を設立し、自動運転車による観光案内などの新規ビジネスが考えられ、これによってこの地域の経済発展を図るべきとの提案も得られました。

【今後の展開】

上記の成果を受けて、受託団体の（一社）研究産業・産業技術振興協会では、今後、この成果をこの地域の自治体、商工会議所などに説明し、その実現を働きかけていくこととしています。

【問い合わせ先】

調査開発全般： 一般財団法人 機械システム振興協会 Tel: 03-6848-5036

本調査開発の詳細： 一般社団法人 研究産業・産業技術振興協会 Tel: 03-3868-0826